
誰がための英雄譚

フラスコの外の巨人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誰がための英雄譚

【Nコード】

N6305X

【作者名】

フラスコの外の巨人

【あらすじ】

Fate／Zeroにおける間桐^{まどう} 雁夜^{かりや}救済ルート？

彼が召喚した英霊は、中華を統一した赤き武人だった。

聖杯は満たされる。英雄達の赤き血で、叶うる望みは唯一つ。誰も
が思いを胸に抱え冬木の地で戦争は始まった。

東方の英雄が出ますが、それが無理な人は読まないことを推奨します。

序章・聖杯胎動（前書き）

こんにちは。厨二病作家？の間桐です？

見てくれる方には、まずは感謝の意を。

作者は、二次創作やフェイト／ワールドガイドとアニメでしかゼロをしりません。

なので、おかしい場所は多々あると思いますので、感想などで指摘くださるとありがたいです。

序章・聖杯胎動

「閉じよ（満たせ）、閉じよ（満たせ）……」

それは、（反）英雄を呼び出す儀式。

血で描かれた魔方陣。その中心に置かれるは、今呼び出そうとする英雄縁の品。

ここでは、巨大な馬の頭蓋骨が置かれている。

「グッ！？ 汝三大の言霊を纏う七天……」

英雄、いや英霊をよぶ男には苦痛の表情が貼り付き、詠唱が進むにつれひどくなっていく。

それでも男は止めない。愛する女と、守るべき女の子がいるからだ。

たとえ、髪が白く成ろうと、半身が麻痺しようと、皮膚の下を虫が蠢こうとも！

詠唱は紡がれた。魔方陣から光が奔流し、この部屋を白に埋め尽くした。

『答えろ、お前が吾のマスターか？』

光と静寂に満たされた部屋に響いた声。

それは、とっさに頭を垂れてしまいそうになる男（英雄）の低い声

だった。

「それでS…だ。この間桐^{まとう} 雁夜^{かりや}がマスターだ」

だが、敬語は必要ない（言いかけたが）。これから共に戦う中で、マスターとして英霊^{サーヴァント}に命令しなくてはならない。

そんな時に自分が下に見られていたら危うい。 令呪は三つしか無いのだから。

「ほおう……吾の言葉^{おもひ}に対してなお抗えるか」

「良からう。お前を吾のマスターに認めようではないか」

フウ、と安堵の息が口から漏れた。

そして、少し心に余裕が出来て気づいた。

おかしい、と。

ここで少し説明を挟むが、英霊の召喚の詠唱は決まっている。そして、呼び出される英霊のクラスは（条件が合っているなら）ランダムだ。

だが、その詠唱に数節加えることにより決められるクラスがある（もちろん、未だ呼び出されていないければだが）。それが、クラスとしての条件が無いバーサーカーと呼ばれる英雄が限定されるアサシンだ。

そして、俺は臓硯に言われるがままに、英雄を獣に落とす数節を加

えた筈だ。

力と引き換えに理性を失うバーサーカーには、意味有る言葉は発せられない筈だ。

「お、お前は、バーサーカーではないのか？」

動揺が隠せない。まさかこの儀式は失敗か…

「違うな。吾は此度の聖杯戦争において侵略者の^{インベイダー}クラスで現界した」

侵略者？そんなクラスは無い筈だ。剣使い（セイバー）、槍使い（ランサー）、弓使い（アーチャー）、騎乗兵、^{ライダー}狂戦士、^{バーサーカー}暗殺者、^{アサシン}魔^キ術師の7つのクラスに英霊は割り振られる筈だ。

そう言うと、侵略者は笑って答えた。

「なに、此の身は7つ全てに当てはまるが、最もふさわしいクラスが侵略者であっただけよ」

「いや、バーサーカーだけは違うかもしれぬな。吾は狂うなどといった事象は不可能だからな」

だから私はバーサーカーとして呼ばれ無かったのか？、と呟きだした。

序章・聖杯胎動（後書き）

投稿の仕方がよく分からない。どうしたら（・・・）

まあ、いいか。

サーヴァントはチートです。マスターは残念な子ですが、マジ主人公です。

弱くて、人間臭くい主人公です。好きな人を守るためなら悪事もする、守られている者達だけの主人公です。

第二序章・我が真名は……（前書き）

アブラカタブラっ！

こんにちは。作者です。作者名が厨二すぎて、言えない作者です。

今回は、サーヴァントの真名とステータスを発表。

参考資料はFate／EXTRAのステータス。元からチートだったあのサーヴァントに少しチートを増やした感じです。

ちなみに、この二次創作内のこのサーヴァントの経歴は嘘です。信じちゃ駄目よ♪

あつ、作者は男げす？土佐弁を稀に使用するかもしれないげす？

明かされるは、彼の^か真名。尋常ならざる紅蓮の英雄。その槍の穂先は誰を穿つ。

さあ、英雄は現れた。今綴られるは英雄譚。されど、誰がための英雄譚。

第二序章・我が真名は……

一人思案しているサーヴァントを見る。

二メートル近い長身。高密度の言葉を表したかのような引き締まった体躯。

厳つい印象があるものの整った顔つき。首まである紅き髪。黄色人種の中では色白な肌。

身に纏う服……鎧は黒と赤を中心にデザインされ、素人目からみても実用的で華美である、それは荘厳な雰囲気醸し出している。

手に持つ紅蓮の槍は、インベイダーの身長を優に越しており、尋常では無い神秘性を撒き散らしている。

そうした考察が終わった時、インベイダーも思案が終わったらしく此方に顔を向けた。

「そう言えばだ、マスター。吾の真名を未だ授けていなかったな。よからうマスター、我が真名を授けよう」

『吾は遼^{なるか}なる大帝国の帝王呂布なり』

「なっ!？」

呂布。それは漢の時代が滅び、遼を建国し、四国時代に突入したとき^に他の三國を降し統一を成し遂げた英雄。

その治世は名君たりえ、民にも慕われた稀代の王であり、死後には

神格化もされた。

それは約二千年ほど昔の出来事でありながら、今なお遼という国が残っていることから、その異常さが伺える。

なるほど。臓硯がお前には勿体ない聖遺物、と言った意味がようやく分かった。

多分、あの馬の頭蓋骨は、彼と共に大陸を駆け、一日千里（四一五キロメートル）を走ると謳うたわれた赤兎馬の頭蓋骨だったのだろう。

真名が分かったことにより、サーヴァントのステータス詳細も分かるようになった筈のため診てみる。

真名 呂布（呂奉先）

クラス インベイダー 侵略者

属性 中立・中庸

サーヴァントステータス

筋力（A） 耐久（A） 敏捷（B） 魔力（C） 幸運（C）
宝具（A++）

クラススキル

単独行動…A+ 陥陣営…B

保有スキル

カリスマ…A 無尽の徒…C 勇猛…A+

宝具

UNKNOWN

「……なっ！」

そう呂布のステータスを見るに、余程の敵が出ない限り順当に聖杯を手に入れるぐらいには。

それに単独行動（A+）は助かる。此の身は刻印虫により無理矢理魔術師に成った身ならば、魔力回路、魔力ともに心許こころもとない。

まして、俺の魔力は生命力を刻印虫に食らわせ生成するから、宝具の開帳以外に魔力を必要としないのは助かる。

俺は聖杯をとり桜ちゃんを助ける迄は倒れてはいけないのだから。

そう思案していると、嫌な予感がして顔をあげる。

そこには紅蓮の槍を此方に突き刺す呂布が視界の端に捉えた。

「なっ！？…何…で…」

心臓の辺りに無情にも紅蓮の槍は突き刺され、血が滲み、口からは異物が吐かれた。

だが、おかしい。痛く無いのだ。刺された場所も、麻痺していた場

所も。

「ふむ。

雁夜、これは『無双龍天画戟』といってな、陳宮がつくった『方天画戟』と、西洋に伝わる伝説の『聖槍』を取り込んだ神槍だ」

そう不敵な笑顔を見せる呂布だが、俺が聞きたかったのはそこじゃない。

俺が聞きたいのはそれじゃないんだ……

「どうして刺した？」

此れで分かる筈だ。今俺が聞きたいことは。

それを聞くと、心底呆れたように呂布は口を開いた。

「雁夜、お前ボロボロだっただろう。髪は真っ白に、片目は異形に、半身は麻痺、体内には虫を飼っている」

「たわけ！ そんなのがマスターなど吾の恥よ。ゆえに手っ取り早く治しただけよ」

感謝するがいい、とドヤ顔を決める呂布を見て思い言葉にする。

「ありがとう」

一瞬、呂布は驚き直ぐに当然とばかりに頷く。

「当たり前だ。吾と共に歩む者がみすばらしくてはな」

そう言って、侵略者は笑った。

第二序章・我が真名は……（後書き）

大丈夫かな（・・・）ちゃんと投稿出来てるかな？

消してしまったぁーorz書き直しがダルかった。

サーヴァントの真名は呂布君でした。分かった人はいないよね。描写無かったし。

えーと『無双龍天画戟』？の命名は作者じゃないよ。

ゲームの『三國（国？）無双6 猛将伝』の画戟の最強武器の名前をそのまま拝借しただけです。テヘッ（・・ω・・）

呂布の一人称は『吾』になりました。アドバイスありがとうございます。

後、バーサーカー（らんすろつと）いる？いるかいらないかと性別を答えてね。

作者は女性で狂化なしの偽バーサーカーがいいかな。佐々木さんみたいなの。

誰がための設定集（前書き）

自分のための設定集でした。作者です（・ω・、）

一話目を二話目に上書きして泣いた作者です。

必死に思い出し投稿しましたが、以前とは少し変わるため見てくださった方には申し訳ないですが、再読をおすすめします。（10月16日時点）

泣きそう（・ω・、）

プロットなしなので、更新時期はまちまちですがよろしく願います
ます m () m

あくまで設定集なので、本文では変更があるかもしれないし、ネタバレもありますので注意を

誰がための設定集

真名 呂布（呂奉先）

身長…194？ 体重…83？

イメージカラー…紅

特技…乗馬・武芸・賭け事

好きなもの…可愛い動物・癒し系な生物・賭け事

苦手なまの…純粋な人間・搦め手

天敵…アサシン（マスターを狙われると……）

クラス インベイダー 侵略者

属性 中立・中庸

サーヴァントステータス

筋力（A） 耐久（A） 敏捷（B） 魔力（C） 幸運（B）

宝具（A++）

クラススキル

単独行動（A+）……マスター不在でも行動できる。ただし宝具の使用など膨大な魔力を必要とする場合はマスターのバックアップが必要。

陥落陣（B）……相手の拠点を攻撃する時のみ筋力と幸運に補正がかかる。

保有スキル

カリスマ（A＋）……圧倒的なまでのカリスマであり、もはや呪いの域にある。

『勇猛』（A＋）威圧・混乱・幻惑といった精神干渉能力の無効化。

無尽の徒（C）……戦闘が長引くほど筋力、耐久、敏捷に微弱な補正がかかっていく。

宝具

戦神五兵【ゴッドフォース】（A＋）……対軍宝具。彼の武器である【無双龍天画戟】が、それひとつで『切る・突く・叩く・薙ぐ・払う』を行える五つの形態に変化する大量破壊兵器。

矛と砲（弓）の形態は確認済み。フォース

人中の呂布・馬中の赤兔【レッドエンペラーズ】（A）対軍仕様の生きる城塞である自身の肉体が宝具。非常に高い実力を持ち、距離が離れていればエーテライトの炉心融解すら防ぎきる。

そして、相棒の赤兎馬召喚能力。赤兎馬は炎のような鬣を持つ馬であり。呂布を乗せて城の塹壕（少なくとも30?以上）を飛び越えることが出来たと言う。赤兎馬は彼以外には懐かなかった。

『太平要術』(B)……南華老仙に与えられた書物。妖術・仙術・魔術が扱えるようになる。また、あらゆる精神的攻撃を無効にし、常に精神の正常化をする。

武器

無双龍天画戟：彼が生前から多用していた武器。

宝具である。

参考資料？

Fate／EXTRAの呂布さん。

クラス バーサーカー

ステータス

筋力(A+) 耐久(A+) 敏捷(B+) 魔力(C+) 幸運(C+)

スキル (全サーヴァント三つに固定)

バーサーカー化(A)

勇猛(B)

反骨の相(B)

宝具(一つに固定) 軍神五兵【ゴッドフォース】(?)

解説……チートです。ヒロインの内の一人のサーヴァントですが終盤の敵らしく強いです。

ちなみに技には絶武無双【ほこ、まじえるにあたわず】、赤兎無尽【せきと、いまだしなず】、必中無弓【ゆみ、きそうかちなし】があります。

解説には、「あらゆる武器を操る古今無双の猛将」とあります。

それから、キャスター以外のクラスになれるのですが、なんと呂布さん魔力（C＋）なんです。

ちなみに今作の呂布さんは、呂布の憑依者にしました。呂布↓現代人↓呂布に。つまり、現代に転生した呂布さんは自分の末路を後悔し、今世ではと文武両道に生活したり社交スキルを磨いたりして満足して死亡（老衰）。

そしたら、微睡みの中南華老詮に何か貰って、呂布でやり直し。大陸統一。

性格

あくまで自己中心な性格。

優しい？が自分に不利益が無い場合のみ（例外はあり）。

雁夜さんの治療も聖杯戦争におけるマスターとの信頼関係を作るため。手強い敵より使えぬ味方が恐ろしいのは自明の理なため。

ただ余りにも不憫な雁夜と桜を多少の不利益なら助けてやろうと感

じる。

通り名（例…征服王）

天帝……世界を統一したことから

猛火の英雄……イメージカラーの紅と炎のような鬣赤兎馬^{たてがみ}、それに侵略者である彼に相応しい『侵略すること火のごとし』が合わさりつけられた？

武器

『無双龍天画戟』……メイドイン陳宮。方天戟の最終形態。オーパーツ。素材は陳宮が拾った不思議な材料。呂布は『聖槍』と『赤兎の鬣^{たてがみ}』以外の材料を知らない。

長柄武器（戟）の一種。それひとつで「切る・突く・叩く・薙ぐ・払う」ができる。

見た目は三國無双猛将伝の六を頑張って出して下さい。それか妄想でも可。

鎧……特に決まった名称は無い。安心のメイドイン陳宮。機能性を追求しながらも装飾も手を抜いていない至高の逸品。オーパーツ。

雨が降ろうが反り血を浴びようが劣化しない不思議な防具。刃や弓矢が通り難い構造がしているらしい。素材は陳宮の拾い物。呂布は何一つ素材を知らない。というよりも怖くて聞けない。

兜……戦闘時につける二本の赤い触覚？衝撃のメイドイン陳宮。何かに反応して動く時が……

呂布曰く気配に敏感になるらしい。

間桐 雁夜

誕生日 3月22日

身長 173? 体重 55?

イメージカラー 青緑

特技 文書作成

必殺技は牛骨すら噛み砕く肉食虫『翅刃虫』の大量使役。弱点は炎。

性格

感覚的に一般人で、魔術師の非情・矜持を受け入れられない。極々平凡な幸福を貴いものとし、尊んでいる。

本当なら呼び出された人

サー・ランスロット「バーサーカー」191cm81kg 属性

秩序・狂

パラメーター・筋力【A】耐久【A】敏捷【A+】魔力【C】幸運

【B】宝具【A+】

宝具・『己が栄光の為でなく（フォー・サムワーズ・グロウリー）』

『騎士は徒手にて死せず（ナイト・オブ・オーナー）』『無毀なる
アロンダイト
湖光』

強い！

誰がための設定集（後書き）

呂布は強い子です。

TS化は、ギルさん狙いです。ヒロインにしたい。

作者的ヒロインには、女アサシン、女ギルさん、女ランスロット、桜ちゃん。

一番下は、犯罪臭がひどい。

ハーレムは聖杯戦争のシステムの無理かな？アドバイス待つてます。

そうだ。アドバイス感想ありがとうございます。

至らない作者ですから、皆さんと共に作品を極力は作りたいです（雁夜さん助け隊として）

（一・一）y一～最終的には、雁夜さんの葵さん寝とりルートも考慮すべきか……

第一話・紅き戦神の想い（前書き）

これからは呂布さん視点が中心になります。

お願い…宝具アイディア募集中です＞（￣|；）＜

作者です。漫画二巻と小説二巻買いました。これで、もう迷わず描けるかも。

受験生なんで不定期更新赦して下さい。あくまで学業が本分で、これは一種の逃避行動ですから。

ヒロインはこいつがいいなあ、とかこんな展開どう、とか採用するかしないかは別として待ってます。

呂布の宝具も。

第一話・紅き戦神の想い

英雄呂布の人生は数奇なものだった。

彼は人生を三度経験している。

第一の人生は、英雄呂布では有ったが、『希代の王』等ではなく、裏切りの猛将や『反覆の将』などと呼ばれ、それに相応しい一生を送り、終には仲間裏切られその生涯をおえた。

そして、彼は気づけば科学が蔓延する平和の島国に生まれた。

そこは、彼が戦っていた時代から約二千年もの月日をへた時代であった。

そして、その時代で自身やその後の事も調べ落胆した。なんて無意味な事だったんだ、と。

何一つ爪痕を歴史に残していないではないか、何が人中の呂布だ。結局、徒に場を見出し仲間殺された道化ではないか！

そして、彼は考えた。せつかくの二度目の生だ。素晴らしい最後に皆が悲しむような生き方をしよう、と。

それから、彼は頑張った。文武両道に社交スキル等々あらゆる技能を身に付けた。勿論時間は掛かったし、才能が乏しいものも有ったが、幸いなことに金には困らない家に生を受けていたため最高の環境に師が揃っていた。

そして、家を継ぎ、仲間にも恵まれ、家も発展させ、良き妻良き子にも恵まれ、終にはその生涯を終えたが、皆に悲しまれ、自身は笑みさえ浮かべて死ねた。

嗚呼、幸せだと。

次に意識が起きたのは微睡みの中だった。南華老仙と自身を呼ぶ神に『太平要術』と呼ばれる書をもらい、新しい人生に向かった。

最後の人生は、また呂布だった。記憶にある町並みや人間を見て確信した。

そして、それは好機だと感じた。自分には未来の知識に戦術、戦略等々、色々あるし、『太平要術』から得られた様々な奇跡があったからだ。

そして、それらを駆使し共に戦う仲間や我らを慕う民の為に迅速に支配していき、一つに統一し『遼』と名付けた。

その後は、治世に力を注ぎ、これが永く続くように画策して、終に寿命を終えたが幸せだった。

それが呂布という男の人生だった。

その後、【天帝】と諡おくりなされる。

そして彼は英霊の座にまねかれた彼の願い【—————】を胸に抱き。

「閉じよ（満たせ）。閉じよ（満たせ）。閉じよ（満たせ）。閉じよ（満たせ）。閉じよ（満たせ）。繰り返すつどに五度。ただ、満たされる刻を破却する。」

——吾を招く標が聞こえる——

「告げる——」

——聖杯戦争？——

「汝の身は我が下に、我が命運は汝の剣に。
聖杯の寄るべに従い、この意、この理に従うならば応えよ——」

——なるほど面白い——

「——誓いを此処に。我は常世総ての善と成る者、我は常世総ての悪を敷く者——」

——痛々しい声だな——

「——されど汝はその眼を混沌に曇らせ侍るべし。汝、狂乱の檻に囚われし者。我はその鎖を手繰る者——」

——ほう。理性を奪おうとするか——

「—汝三大の言霊を纏う七天、抑止の輪より来たれ、天秤の守り手よ——！」

——だが——

——吾は狂う事なき男故に——

『答えろ、お前が吾のマスターか？』

光と静寂に満たされた部屋に現界する自身の最盛期の肉体。

吾の前に控えるは、醜悪な体をしている白髪の男。

多分マスターだろう。

「それでs…だ。この間桐 雁夜がマスターだ」

少し威圧を加えた吾が言葉に少し危ういながらも毅然と答えるマスター。いや雁夜。

初見の印象を上方に修正するか。

「ほおう……吾の言葉おもひに対してなお抗えるか」

「良からう。お前を吾のマスターに認めようではないか」

そう、頑張って貰わなくてはな。吾が望みを叶えるために。そう思案していると、雁夜が突然何かに気づいた顔をし口を開いた。

「お、お前は、バーサーカーではないのか？」

成る程。誰が見ても吾を理性無き獣バーサーカーとは思うまいか。

「違うな。吾は此度の聖杯戦争において侵略者インバイダーのクラスで現界した」

侵略者。此度の聖杯戦争において、吾に与えられたサーヴァントのクラス。

他を侵略し続け中華を統べた吾に最も相応しいクラス。

「なに、此の身は7つ全てに当てはまるが、最もふさわしいクラスが侵略者であっただけよ」

「いや、バーサーカーだけは違うかもしれぬな。吾は狂うなどといった事象は不可能だからな」

と、雁夜に説明してやる。信頼関係を築くには必要だからな。ふと思ひ出して口を開く。

「そう言えばだ、マスター。吾の真名を未だ授けていなかったな。よかろうマスター、我が真名を授けよう」

威圧を振るい宣言する。吾が真名を。

『吾は呂布。はるか遼なる大帝国が帝王なり』

「なっ!?!」

驚く雁夜を見てひどく心地が良くなる自分に内心苦笑する。

「……なっ!?!」

吾のステータスを見てか、雁夜が呻く。

マスターの魔力は未熟でステータスダウンしても可笑しくは無いが、それは『無双龍天画戟』

に組み込まれている『聖槍』がカバーしている。

そして、その『聖槍』の力を使いしなくてはならないことが有る。

そして紅蓮の槍『無双龍天画戟』を雁夜に突き刺す。

「なっ!?!?…何…で…」

雁夜が呻くが仕方有るまい。これも聖杯戦争の勝利のためであり彼のためでもある。

心臓の辺りに突き刺された紅蓮の槍の辺りは、血が滲み、口からは異物が吐かれた。

異物。まあ血にまみれたキモい虫だが、これが原因か。

雁夜から発する醜悪な魔力に、そのボロボロな体は。

まあ、何故刺されたかわからない雁夜には、この自慢の槍の説明もつけて教えてやろう。

吾を呼び出したのがどんなに素晴らしいかを。

「ふむ。雁夜、これは『無双龍天画戟』といってな、陳宮がつくった『方天画戟』と、西洋に伝わる伝説の『聖槍』を組み込んだ神槍よ」

そう不敵な笑顔を見せるも怪訝な顔をする雁夜。何故？

「どうして刺した？」

気づいているのに気づかぬ振りか……いや、あれは本当に分かってないな。

『神の御子』の血を浴び聖なる槍になった『聖槍』には治癒の力が有るのは有名だろうに……

「ハア……雁夜、お前ボロボロだっただろう。髪は真っ白に、片目は異形に、半身は麻痺、体内には虫を飼っている」

『太平要術』により妖術・仙術を会得している吾には分かるからな。

「嫌だからそんなのがマスターなんて吾は。」

だから手っ取り早く治しただけよ」

感謝して精々サポートに徹しろよ。戦争をしらぬ者が戦場にでるなと殺して下さい、と言うようなものだからな。

「ありがとう」

そう言って朗らかに笑う雁夜に苦笑する。

全く、面白いマスターを選んだみたいだな……

「当たり前だ。吾と共に歩む者がみすばらしくてはな」

だが、少しくらいは助けてやろう。サーヴァントらしくな。

第一話・紅き戦神の想い（後書き）

呂布さんの謎が深まる。

二人の養父とは……

誰だ！？

次は桜ちゃん救済？と臓硯討伐？が始まる？

そして雁夜には、新たな魔術回路が……

第二話・間桐革命勃発！（前書き）

こんにちは。作者です（＾3＾）／

アンケートを実施したいです。

ヒロインは誰？

？、ギルガメッシュ（女）

？、ランスロット（女）

？、桜（光源氏作戦）

？、他

？、複数

？と？は詳しくお願いします。一人三票までお願いします＞（
|；）＜

期限は未定ですがお早めに（＾ー＾）／

第二話・間桐革命勃発！

「手始めにだ。雁夜、今お前の体内には刻印虫がいなくなった」

「ああ、異物が消えた感じだ」

そう言って雁夜は、今までのそら恐ろしい顔から、何処にでもいそうな好青年の笑顔を浮かべた。

「しかしだ。刻印虫がいなくなった今お前は、吾への魔力供給が出来なくなった。相違無いな？」

「確かにそうだ。だが何故知っている？ 話した覚えは無いぞ。刻印虫の名前もその役割も」

「なに、それは吾が宝具を使ったまで」

そう言い、紅色のパッケージをした厚い本を現界させる。

「これは太平要術つといってな。これを読むことによって、吾は世を太平にするためのあらゆる術をてにいった」

「その術に人の記憶を見る術が有る。その人物が信に値する人物かどうかを見分けるためにな」

「それで知ったと……知った理由は分かった。だが魔力供給が出来ないのは確かだ。インベイダーには、単独行動が有るのは知っている

るが、それも一週間ぐらいだ。どうする？」

「これを使う」

そう言いながら太平要術を指す。

「これは、三冊ある。その一つを授かった張角という男は読むだけで、自身にあった太平にするための術を授かったんだが、

当然吾が持っている太平要術にも同じシステムが入っている」

「故にだ。雁夜今すぐこの書を読め。この呂布が汝に閲覧を許可する！」

そう言った瞬間に、紅き魔術書が光り、雁夜の手元に移動する。

「雁夜。貴様の記憶は見た。（聖杯）戦争が始まる前にやらなくてはならないことが有るようだな」

「まさかっ！？助けてくれるのか……」

それが雁夜の記憶にいた虫蔵で犯され続けている薄紫の少女か、雁夜自身への救いかは分からなかった。

あるいは両方か……

： 終わったか。

雁夜が太平要術を閉じて、こちらを見据える。

あの本は、読み手が望む力を世を太平にするための術の形として与えるが、勿論万能ではない。あれは読み手の素質、願望の形を強化……いや昇華させる魔術書である。

例えば、張角なら争いに苦しむ民のために『癒し』を求め、その強き願いを太平要術が強めた。その結果授けられた術は、あらゆる病全てを無条件で回復するものではなかったが、他の術に比べれば破格の効果と条件では有った……

勿論、吾も破格の効果と容易な使用条件ではあったが、完全な力では無く。あくまでも持つてある能力の強化であつた。

雁夜を見据える。読み終わったなら、魔術回路の拡張と魔術供給に
ついては心配無いが、どんな術をえたのかは興味がある。

それは雁夜という一個の人間の形の具現なのだから。

「して雁夜よ。何を得た？」

「力だよ。この血に忌々しくも流れる蟲の使役者足る力に、隠密の力だ」

「笑えよ、インベイダー。此の身に宿りし力は、不遇の身を耐える少女を助ける力ではないことを！……得たのは血族の力と卑怯な俺に相応しい隠れる力だ……」

嘆いたきり、項垂れる雁夜を見る。まさにその姿は、贖罪を求めるユダのごときであった。

しかしだ……

「雁夜よ、面を上げろ。確かにその力は彼女の痛みを癒す力は無いかも知れぬ。だが、忘れたか雁夜」

「吾達が次にすることを。それは、きっと彼女の痛みを終わらせられるだろうよ。だから前を向かんか、雁夜っ！」

そうだと、吾マスターになったのなら、下を向くことなど赦されぬ。

唯ひたすらに前を行け。雁夜よ。

準備が整いと言っても、少しの休憩のみだけだが、地下室の扉を開き三人を探す。

最優先の救出目標である間桐桜。他二人を裁い（殺し）ても、彼女が死ねば意味がない。

最重要殺害目標の間桐臓硯。雁夜の中にいた刻印虫を殺したため、何かが起こっているかは知っている筈。

間桐鶴野。間桐桜を痛め付けた殺害目標。

とは、雁夜談であるが、それに承諾し、桜のいるであろう部屋に向かう。儀式前に彼女から、今日は教育（拷問）は無いと聞いたらしい。

部屋に到着して、扉を開くと、薄紫の髪をした触れると壊れそうな女の子が何をするわけではなく、視線を虚空へさ迷わせていた。

「雁夜叔父さんこの人は誰？」

そう雁夜に向けて話し掛ける彼女の目には光りが無く、見るだけで痛々しかった。

そして、嘗て見た見た暴君が治める場所の希望を知らない人達を思い出し、怒りが灯る。

「彼はね叔父さんの知り合いなんだ」

「呂布だ。よろしくな桜ちゃん」

出来る限りの優しさをもって接する。

「よろしく」

握手をする。そのときに彼女の体にある異物の確認行う。

それが終了すると同時に、握手を終わらす。

「何したの」

こてん、と首を横に傾ける動作は小動物（特にリス）を思わせる容姿も相まって、癒される。

この子は絶対に助けるか。戦に癒しは大切だ。

「お呪いだ。^{まじな}君の未来に幸有れ、とな」

「雁夜。ここで桜を見ていろよ」

そう言い、この屋敷にて感じる吾以外の魔力反応の内、最も強い場所に移動する。

雁夜の記憶から、臓硯という化け物は、自身の魂を蟲に分割しているらしい。

しかし、此方には倒す術がある。この『無双龍天画戟』と『太平要術』があればな。

——いた。

「呵々々ッ、サーヴァント風情が、儂に何のようじゃ？」

気味が悪い妖怪のような男が立っていた。

「何、化け物退治を頼まれただけよッ！」

無双龍天画戟を【叩く】に特化した大鎚モードに切り替え、臓硯の脳天に振るう。

轟音に軋む大地。

だが、潰された人だったものの後からは蟲が這い出てくる。

『呵々々々ッ、残念じゃったなサーヴァントよ。儂は死なッ!?!』

―死なない―とは、何処からともなく聞こえる化け物は言いきれなかった。

消滅。這い出てきた蟲たちが一斉に苦しみ悶え消えていく。

これは、聖槍の【浄化】の特性に太平要術の術の一つの【連鎖】の術を使っただけであり、この化け物以外には殆ど使い所の無い術だった。

しかし、何百年もの時を生きた化け物の最後は、やけにあっさりしたものだっただけ。

しかし化け物退治は完遂した。調べてみたが、間桐臓硯などと言う【魂】は、最早この世には無い。

ならば動くは次なる標的へ、臓硯は『自分は死なない』といったあらぬ盲信を抱き、油断し魔術を使わなかった。

だが、次なる標的である鶴野は非才なればサーヴァントという規格外が現れたら魔術を行使し、抗うに違いない。そう油断の欠片もなく。

……呆気なかった。鶴野と思わしき人物は、床に倒れ伏して寝ていた。……酒瓶を床に撒き散らして。

これで終わり、と止めをさす。いや楽なのは嬉しいが、釈然としなかった。

第二話・間桐革命勃発！（後書き）

何か釈然としない終わり方ではないですか（・ω・）

臓硯エ、鶴野エ。（早く終わらせたかったがために）彼らは犠牲となったのだ。

作者てき雁夜さんの属性？は【隠密】です。名前からですが、夜空羽ばたく雁（というか鳥）は見つけにくいからです。

【隠密】は、気配遮断や逃走に強いです。

異議がある人は感想をお願いします。多分変わりませんが：

閑話・雁夜さんと桜ちゃん（前書き）

クルーシオっ。作者です。

アンケートはまだ続きます。

今回話すのは『太平要術』の裏設定？

あれは望みに適した術を、願望者の術の才能を昇華させますが、それ以外の術の才能は無くなる、という裏設定。

つまり雁夜さんなら【蟲使い】と【隠密】に必要な術以外の術の才能は無いです。

閑話・雁夜さんと桜ちゃん

side 雁夜

今しがた呂布が出ていった扉を見つめる少女桜。

何時も姉である遠坂 凜の背中に守られていた心優しい少女だった
遠坂 桜。

それが、自身が忌み嫌う間桐の家に送られ、教育と言う名の拷問を受け、髪の色は変わり、瞳に光彩は無くなり、何かが壊れている印象を受ける間桐 桜になってしまった。

助けよう、と思った。その気持ちに嘘は無い。

ただ、恐れていたんだ。化け物の間桐 臓硯を……

そのせいで、桜ちゃんがこんなにも酷くなっていたかもしれない。

だけど、あの時桜ちゃんが間桐に来たと知った時に、俺が直接桜ちゃんを連れ出して逃げずに臓硯取引を持ちかけたのは仕方無いことだった。

俺は臓硯には敵わないし、まして俺が桜ちゃんを助け出せずに死んだら、誰が桜ちゃんを助けるのか……

あの子を【子を産む胎盤】としか見てない間桐はもちろん。この残酷な行為を知る由も無い遠坂もだ。

仮に知ったとしても、あの時臣のことだ。魔術のためなら、と助け無いかもしれないな。

だが、今俺は桜ちゃんを助けられる手前まできている。

嬉しい。今までの苦勞が全て報われ、祝福されているようだ。

この子を守る。そのための力は得た。だからまずは、この子を癒し、あの優しいサーヴァントの聖杯獲得に尽力しよう。

「雁夜おじさん？どうしたの？」

桜ちゃんが不思議そうに此方をみている。

「大丈夫だよ、桜ちゃん。そうだこれを飲んでね」

そう言い、呂布に渡された袋から輝く聖槍の欠片を渡す。

これは、邪なるものを滅ぼす【浄化】と肉体を復元（回復）させる【癒し】の力がある。

俺もここへ来る前に飲み、壊死した眼球には視力が戻り、麻痺した体も動かせるようになり、体の異常という異常は全て治った。

ただ白い髪を除いて……。インベイダー曰く、精神的なものまでは治らないらしい。

だが、これには後悔は無い。これは自身の報いの贖罪の証なのだから。

ゴクリ、桜ちゃんがその欠片を飲み込む。少しして、驚いたような感情が表れる。

この一年間で初めて見た絶望している少女の感情現れだった。

「おじいさまのムシがいなくなった」

茫然と呟く彼女のそれをきき、インベイダーが化け物を倒したか、それとも聖槍の欠片が治したかは分からないが、目的は達せられた。

「桜ちゃん。君は助かったんだ。あの男はもういないよ」

優しく微笑みかける。今まで言えなかった【救いの言葉】を投げ掛けた。

一瞬の静寂。それが終わった後には、涙を流しながらもいまだ暗い眼差しをしている少女がの言葉は確かに聞こえた。

「嬉しい……」

と。

今はまだ桜ちゃんの心は癒されていない。

それを時が解決してくれるのを強く望んだ。

閑話・雁夜さんと桜ちゃん（後書き）

短めです。投稿なしよりいいかなと走り書きです。

次に桜ちゃんサイドを載せるかも。

閑話・桜ちゃんと雁夜おじさん（前書き）

止まない雨は無いし、出口の無いトンネルは無い。

作者です。これを目指して頑張ります（・ω・）+

ライダーこと征服王が危険視した男をサーヴァントメイカー？みた
いなので検索してみました。

クリントン

【アサシン】 【秩序・狂】 筋力（A+） 耐久（B） 俊敏（
A） 魔力（A+） 幸運（E） 宝具（B）

これは強い……。あとインベイダーこと呂布さんのステータスの低
下を考えてますがどうでしょう？

一応、知名度やその武勇から妥当と考虑てましたが、少し厨二くさ
くもあるんで迷ってます。

アドバイスお願いします。

閑話・桜ちゃんと雁夜おじさん

side桜

今、呂布と名乗った、赤いお兄さんが出ていった扉を見つめる。

あの男の人は、私に【助ける】と言ってくれた。

それは、私をこの苦しくて、痛い【今】から救い出そうとしてくれているんだと思う。

幼いながらに、あの赤いお兄さんの目から本当に助けよう、としてくれているのを感じたからだ。

ただ、それは不可能何だと、絶望に包まれ、希望という言葉を見失った少女は諦めた。

あの人が誰であろうと、おじいさまには敵わないし、私が助けられる事がないのはこの一年間で身に染みているからだ。

だから、助けよう、と言ってくれた時に感じたこの小さな痛みは忘れ無くちやいけないんだ……

そうじゃないと、慣れてしまったおじいさまや鶴野というおじさん達【教育者】の教育（拷問）が、また辛くなってしまおうから……

なんで……おねえちゃんじゃなくて私が……いやおねえちゃんもういないんだった。

呂布と名乗ったお兄さんと一緒に来ていた雁夜おじさんが考えこんでいる。

雁夜おじさんは、私に何時も優しくしてくれた人だった。

ここに住み始めてからは、私を氣遣ってくれるけど助けてはくれない人だ。

「雁夜おじさん？ どうしたの？」

その雁夜おじさんが、すごく満たされたような顔で、手にしている袋と私を見ている。

「大丈夫だよ、桜ちゃん。そうだこれを飲んでね」

そう言って、袋から輝く欠片を渡してきた。

それは、とても綺麗で私なんかが触っちゃいけない気がする。

だけど、せっかく飲んでと言うのだ、あの諦めているような顔から昔のような優しい雁夜おじさんの顔になっているのだから……

ゴクリ、その欠片を飲み込む。少しして、体内にいる蟲がのたうちまわってきえっていった。

それにボロボロの体も凄く調子が良くなり、まるで健康体になったかのように。この一年間で初めて見た絶望している少女の感情現れだった。

「おじいさまのムシがいなくなった」

茫然と呟く、私は救われたのかも知れない、と。

涙が、この一年間で無くなったはずのものが頬を伝って落ちていく。

もしかしたら、あの赤いお兄さんが助けてくれたのかも知れない。

私と雁夜おじさんを……。

「桜ちゃん。君は助かったんだ。あの男はもういないよ」

そう優しく微笑みかけてくる。今まで言ってこなかった【救いの言葉】を投げ掛けて。

嗚呼、やっぱりあの人が私達を助けてくれたんだと、涙を流しながら私はそう思った。

「嬉しい……」

と、口から零れた。

今は、まだよく分からないけど、遠くに光溢れる出口を見たような気がした

閑話・桜ちゃんと雁夜おじさん（後書き）

桜ちゃん目線ですが、くどい言い回しや、幼女に相応しくない言葉づかいですが、これは作者の力量不足です。

すいませんm（　）m

気づかされたになるんですけど、雁夜さんは葵さんと結ばれるべきですか？

一応、結ばれるつもりですがヤメローな人や、けしからんそのまま続ける人もアドバイスお願いします。

アニメのケイネスさんが、ぶりぶりざえもんの声優さんがしてるみたいですね。

驚いた作者です。

教えて雁夜おじさん（前書き）

色々と疑問などをまとめて見ました。抜けたりしてる場所も有るかと思いますがよろしくです。

作者の愚痴？

こういう相手が誰だか分からない場所には、最低限の礼儀はいると思うんです。

相手が年上か年下か、はたまた女性か男性か、どんな仕事や学生をしているかは分からないなら、相手には丁寧語とは言いませんが（自分もできてるか怪しいので）、不快にならない程度の言い回しをするほうがいいですよ。

敬意をはらえとは言わないですが、見えて不快です。

あと、こんな駄作みてくださって、ありがとうございます。応援してくれる方には特に。

これからも宜しくお願いします。

教えて雁夜おじさん

ここは、作者のQ & a m p; Aのコーナー。

感想にあった疑問や、作者の説明不足な点を少しでも解決するコーナーです。

Q、なんで呂布の設定に天下を統一をいれたの？

A、もともと、今作品の呂布は、神のテンプレ憑依者にするつもりでした（今もそれにするか迷い中）ので天下統一設定を入れました。
つまり俺TUEEE！を表すための分かりやすい設定ですね。

Q、なんで三國志のときに四国って書いてあるの？

A、捏造呂布さんがいるからです。因みに、曹操の魏と劉備の蜀、そして孫権の呉と呂布の遼です。

遼は読者さんからのアドバイスで決定。ありがとうございました。
意味は遼^{はるか}なる大帝国らしいです（へーへ）／

Q、設定にバーサーカ化ってあるけど狂化じゃないの？

A、フェイトエクストラの中では狂化のことはバーサーカ化で表記されているため、呂布の説明でしたのでそちらにしました。

Q、これって何処まで続くの？

A、一応、第五次までを考えてます。好評ならエクストラにも進出するかも……月姫に関しては、殆ど知らないので無いかと。

Q、呂布の能力強すぎるだろうっ！この厨二病患者が！

A、すいません。その通りです。ただ、他の方々も英霊ですので互角辺りかも……

Q、サーヴァントは西洋の英霊しか出せないらしいよ（設定にあるらしいです）

A、そーなのかつ！とか感想で書かれたときは、そう思いましたが、他の読者の方が教えてくれました。

アサシンことハサンさんこと山の翁は中東の英雄だよ、と。じゃあいいじゃんと呂布だしても、それに呂布さん世界各地で活躍した設定なんだし、と。

因みに英雄王ギルガメッシュは西アジアの英雄ですしね。

Q、キャラクターのTSは変態だっ！いや反対だ！

A、キャラクターのTSは、して欲しい方ー（マイナス）して欲しくない方〳（イコール）十票以上の時に初めて考えてみます。

原作のキャラの価値観を大事にしている方もいらっしやるだろうので、こういう感じに。アンケートのリミットはそのキャラの登場時迄だと思いますので、お早めに。

Q、あの間桐 臓KENが、あんなに簡単に倒せる筈はない。

A、ご都合主義の怪物に倒されたんです。きっと。

あと、これは裏設定ですが、臓硯を倒すために【太平要術】は作られました。役に立たなかったけど……

今回はここまでです。随時増やして行きたいので、時々みてね♪
1
0月23日

教えて雁夜おじさん（後書き）

作者のお願い。

批評する方は、ここが悪い所ですからこうした方がいい、などの解決方法も添えてくださるとうれしいです（・ω・、）

あと、批評は詳しくお願いします。

『なんか、全体的にゝ悪いゝ』とかは、批評じゃなくて侮辱だと思うんで、萎えます。

あと、度量狭いんで不機嫌になります。

ランキングに乗っててびっくりしました。見つけた時にΣ（。Д。；
）になりましたww

第三話・作戦会議（前書き）

雁夜さんの一人称は『俺』ですが、桜ちゃんや、葵さんといった保護対象？には『僕』で有ってますか？

あと、雁夜さんの呂布さんへの呼称は、会話では基本的に『インベイダー』で、心中は『呂布』や『インベイダー』などマチマチ。

桜ちゃんの前では『呂布さん』が多い。感じにしています。

第三話・作戦会議

side 呂布

間桐家に住まう害虫達を滅した後、雁夜と桜の二人がいた場所に戻ってきた。

嬉しそうな雁夜と微妙に感動しているらしい桜を見るに、桜の体内の正常化は無事成功したらしい。

「ふむ、雁夜よ。化け物退治は無事終わったぞ」

少し歯ごたえが無かったがな、とぼやいてみる。

「ありがとうインベイダー。こちらは無事終わったよ。貴方のおかげです」

「おじさん。インベイダーって何？ 呂布さんじゃないの？」

えーと、と雁夜がどう説明したらいいのか分からないのか、困った顔をした。

「そうだな、桜よ。桜も冬木の地にいるからには無関係と言うわけでは無いな。……よし、説明するか、いいな雁夜よ。これも桜に危険を遠ざけるためだ」

「ああ、わかったよ。桜ちゃん、これから話す事は真剣に聞いてね。いいかい？」

コクン、と頷き桜は、吾と雁夜に話を促す。

「そうだな。簡単に説明するとだな。……ここ冬木市では、一定の周期で戦争が起こる。基本的に、これにはマスターと呼ばれるサポーターが七人と戦闘を実際にする七人がいる。」

「その実際に戦闘をする奴らには、ニックネームがあるがその一つにインベイダー、つまり吾だな。」

「七人といっても一人一人が町など軽く破壊出来るから、この戦争が始まると冬木市は危険になる。まだ準備期間だが、すぐに終わるだろう」

「この戦争は基本的に夜間で行われるから、夕方以降の外出は厳禁だな」

「この戦争の勝利者は一組だけだ。彼らは勝利者のみに与えられる賞品を目指して戦う。分かったか？」

簡略化した聖杯聖杯への説明を終わらせ、桜に疑問は無いかと問う。

「雁夜おじさんはマスターなの？」

「そうだよ。最初の目的は無くなったけど、今度は恩人である呂布さんのサポーターをするんだ」

そう、と自身に意味を飲み込ませるように頷いて、桜は顔を雁夜と吾に向き合う。

「雁夜おじさんと呂布おにいさんは、死なないよね？大丈夫だよ」

「？」

すぐるように聞いてくる桜は捨てられそうな小動物を連想させるが……お兄さんだと？

いや、確かに最盛期の肉体である身体は二十代ではあるが、雁夜もだろ。

あつ、雁夜が何か凄い落ち込んでる。

「いや、昔から雁夜おじさんだったから仕方ないけど、インベイダーがお兄さんなのはなんか納得いかない」

と、嘆いているが、どうしろと言うんだ吾に……はあ。

雁夜は嘆き終わった後に、桜の身長に合わせるために屈んで、桜の髪を撫でながら口を開いた。

「桜ちゃん。僕らは絶対君を残してはいくならないよ。だから約束しよう、桜ちゃんも絶対におじさん達を残していなくなったりしないって、約束できるね？」

そう、意志の籠った顔つきで桜に問えば、桜は少し戸惑いながらもしっかりとした口調で宣言した。

「絶対だよ！ 雁夜おじさんに呂布お兄さん」

「勿論だよ」「分かった」

ここで、水をさすのも大人気ないので了解の意を表す。

「ならば、桜よ。吾らが戦争に参加する以上は狙われる可能性は零ではない。」

「吾らも助けるが、桜もしつかりと言うことは聞いておけ、約束を守る為にもだ。いいな？」

桜は、約束という言葉が聞いたのか、渋らずに頷いた。

「雁夜、桜に何か魔術はかけれんのか？お前は隠密性が高い術が有るとか言ってたよな？」

「そうだな……。桜ちゃんに僕達以外の意識が向かわないように出来るよ。気休めだけどね」

そう言い、怖くないからねと前置きをし桜に魔術を使う。

掛け終わり、何かに気付いたかのように、それでいて少し自分でも納得してない、といった感じに吾に話しかけてきた。

「僕は、桜ちゃんが魔術という最低な物を覚えるのは反対だけど、桜ちゃんが少しでも安全になるなら、そして大前提だけど桜ちゃんが納得するなら……」

次の言葉を躊躇うように、雁夜の言葉が途切れる。

「桜ちゃんに魔術を、いや太平要術を見せてあげて欲しい！」

頼む、と綺麗なお辞儀を決める雁夜。多分、桜がいなかったら土下座してるんじゃないかな？

「あ、嗚呼、吾は別に構わんが、するかどうかは桜に決めさせろよ？」

「そうだったな。桜ちゃんは魔術を覚えたいかい？」

優しく語りかける雁夜の雰囲気には、断ってくれるのを期待している感じがした。

「呂布お兄さん。それがあれば私は強くなれるの？」

「ああ、そうだな」

「じゃあ、お願いします」

雁夜と違って、綺麗なお辞儀では無かったが、気持ちだけはちゃんと伝わってきた。

.....

.....

.....

.....

.....

雁夜と同じように太平要術を読み終わった桜は、間桐の水属性と桜

固有の【虚】が合わさった【影】の魔術が昇華したらしい。

【影】は物体を取り込んで消したり、影から不思議物体を作り出して身体を包んだり、それで攻撃できるらしい。

何か凄すぎるが、まだ使い方は有るらしい。

まあ、いい。

その話しは置いて、話し合った結果、基本的な戦略は、吾が戦う時は雁夜はその周辺に隠れてることを優先しながら、出来たら虫で近くのマスターを攻撃になった。

卑怯かもしれないが、勝ちには変えられん。

戦場での指揮権は吾にあり、雁夜はサポーターに徹する。

ただし雁夜は、遠坂のサーヴァントの優先的な殺害を頼んできたので、了承の意を表した。

ただ、遠坂のマスターは自身で決着をつけるため、手出しは無用と。

それは、雁夜が危なくなったら介入はする、と言っておく。

まあ、雁夜の記憶を見たからには、水をさしたく無いが、雁夜が死ねば吾が困る。

約束もあるしな。

後、雁夜の蟲は改造できるらしいため、吾の力である【炎】に相性

の言いように改造させることにした。

吾の技で蟲を殺したら意味無いからな。

これで、作戦も決まった

ゆえに宣言しよう。

『これより、吾らの聖杯戦争を開始する！！』

さあ、血湧き肉踊る戦争は開始された！

吾が望みのために死んでもらうぞ、敵共よ。

第三話・作戦会議（後書き）

最初に桜ちゃんに会ったとき、呂布は『桜ちゃん』と桜ちゃんに話し掛けてますが、あれは相手に怯えさせないように苦心した結果です。ので、化け物退治が終わったので、もう大丈夫かな、と『桜』に変更してます。

彼も、自分には合っていない、とか考えますから。

没ネタですけど、桜ちゃんを助ける時に、雁夜と桜を『ひぐらし』の赤坂と梨花のパロディにしようとしたんですよ。

……それだけです。

呂布の国を【遼】にしました。皆さんアドバイスありがとうございます（＾ー＾）／

聖杯戦争始動（前書き）

お久しぶりです。

なんか急に書くのが面倒くさくなり執筆を途中で放棄していました。

すいません m () m

話は変わりますが、なんで【気配遮断（A＋）】を持つアサシンは切嗣（やその他大勢）に簡単にばれるのでしょうか？

確かに攻撃する時には説明からしてばれるのは仕方ない、とは思いますが。

しかし、隠密の英雄といってもいい者を現代のサーモグラフィで簡単に分かれば、アサシンの優位性は無くなるのでおかしいとは思いませんか？

や、まあ、良いんですけどね。

聖杯戦争始動

SIDE呂布

「アサシンが倒された!？」

そう雁夜が報告してきたのは数時間前だ。

何でもアサシンのマスターことみな言峰きれい綺礼が師弟関係を結んでいるアーチャーのマスターである遠坂とおさか時臣ときおみに襲撃を仕掛けたところアサシンはアーチャーの攻撃に殛殺されたらしい。

アサシンのステータスは、【筋力(C)】【魔力(C)】【耐久(D)】【幸運(E)】【敏捷(A)】【宝具(B)】
アーチャーのステータスは【筋力(B)】【魔力(A)】【耐久(B)】【幸運(A)】【敏捷(B)】【宝具(EX)】。

勝ったアーチャーは、黄金の鎧に空間から宝具と思わしき武器を射出したらしい。

……強敵だな。

ただ雁夜が言うには疑問が残るらしい、あまりにも出来すぎていると。

これは、まるで時臣が好みそうな芝居がかった劇のようだ、と。

……確かに、【気配遮断】を持つアサシンに対して、まるで来るのが分かっていたかのようにアーチャーが待ち構えていたらしいこと

から、アサシンに復活などの命のストックがあるような宝具がある
と見てもいいと思う。

これから察するにその後協会に匿われた言峰 綺麗を他のマスター
からの意識から外すのが目的と見える。

そして、これがいかな茶番劇であろうとも聖杯戦争の第一戦目。

つまり、本格的な聖杯戦争が始まったと言える。

.....

.....

.....

.....

...

ランサーとセイバーの激突の場の近くに身を潜める。

相手に気取られぬギリギリの位置ではあるが……

これを知ったのは全くの偶然である。

戦闘に有利な場所や不利な場所の探索のために雁夜と探索しているところ、海浜公園という場所の西側に隣接する、無味乾燥なプレハブ倉庫が延々と連なる倉庫街で、二つのサーヴァントの気配がした。雁夜には使い魔である、緋い蜂を数匹とばさせて、下水道に隠れさせ、自身は霊体化して警戒しながら近づく。

雁夜からの使い魔の報告では、セイバーとランサーの戦いであり、見たところ始まったばかりのようだ。

セイバーのマスターらしき白い女性が確認出来るが、ランサーのマスターらしき人影は無いらしい。

そして、セイバーは見えない剣を所持し、ステータスは、
【筋力(B)】 【魔力(A)】 【耐久(A)】 【幸運(D)】 【敏捷(A)】 【宝具(A++)】、と全体的に優秀で、さすがは最優のサーヴァントといったところか。

ついで、ランサーは二本の槍を持ち、呪符を巻いていることから何らかの能力を持つ宝具と見てとれる。ステータスは、
【筋力(B)】 【魔力(D)】 【耐久(C)】 【幸運(E)】 【敏捷(A+)】 【宝具(B)】と、典型的な最速のサーヴァントのランサーである。

見たところ、互角だが……終に痺れを切らしたのか、ランサーが片方の槍を捨て、もう片方の槍に巻かれた呪符を除ける。

現れたのは、真紅の槍だった。

そこから空気が変わった。ランサーは変幻自在な槍捌きから、一直線の突き。

一見無策に見えたそれは、次の出来事により間違いだと分かる。

真紅の槍がセイバーの不可視の剣に当たった瞬間に姿を表した。

どんな能力かは、まだすこし分からないがセイバーの剣の間合いが分かりよしとする。

その後、セイバーの魔力で出来ていとみられる鎧を消して攻撃できたことから、真紅の槍の能力は、刃に触れた魔力の消滅と分かった。

しかし、魔力の塊であるサーヴァントのセイバーの肉体は消滅せず、傷がついただけであることから、何か消滅できる物とできない物の区別があるようだ。

そして、戦いは続き、ランサーのもう1つの宝具である与えた決して傷が癒えることのなくなる魔槍や、セイバーの真名やランサーの真名が分かった。

ちなみにセイバーの真名は聖剣エクスカリバーの使い手『アーサー王』であり、異なる2つの魔槍を操るランサーの真名は『ディルムッド』であった。

こうも簡単に真名を気取られる2人の英雄に呆れながらも、聖杯からの知識を元に対策を考える。

そうして考えていると、雷のごとき轟音を響かせ、二頭の牛に牽か

れるチャリオット（昔の戦車）が虚空を駆けながら現れた。

そして、そのチャリオットから夕日を思わせる朱い大男が立ち上がり、威風堂々と吼えた。

「双方、武器を収めよ。王の御前である！」

いきなりの仲裁に、いや2人の英雄の戦いへの水を差す行為に意図を計りかねたその2人が躊躇する。

そして、その巨漢は言葉を続ける。

「我が名は征服王イスカンダル。此度の聖杯戦争においてはライダーのクラスを得て限界した」

突如、自身の真名を名乗るライダーに驚き、硬直する。

硬直していると、ライダーのチャリオットから小さな男がライダーに掴み掛かって金切り声を上げる。

「何を――考えてやがりますかこの馬っ鹿はあああ！！」

その声と自身より慌てる男、いやライダーのマスターを見て吾を取り戻し、雁夜と念話をする。

『雁夜。あのライダーの真名は？あとパラメーターはどうだ？』

あのライダーの雰囲気から虚言では無いだろうが、一応確認をとる。

そして、マスターの特典ともいえるサーヴァントのパラメーターの

視認をさせておく。

『インベイダー。本当にあのライダーの真名はイスカンダルだ。そしてパラメーターは……だ。』

そう念話が雁夜からかえってきた。

それによると、ライダーのパラメーターはこうらしい。

【クラス…ライダー】

【真名…イスカンダル】

・クラススキル・

【対魔力『D』】

【騎乗『A+』】

・保有スキル・

【カリスマ『A』】

【軍略『B』】

【神性『C』】

・ステータス・

【筋力『B』】

【魔力『C』】

【耐久『A』】

【幸運『A+』】

【敏捷『D』】

【宝具『A++』】

と、なっているらしい。

なかなか強い。油断は出来ないな。

ちなみにマスターのパラメーターの視認は、最初は筋力などの宝具のランクを除くパラメーターしか見えないが、クラスが分かるとクラススキルが、真名がわかると保有スキルとパラメーターの宝具のランクが分かると、いう段階型になっているらしい。

おっと……、吾は誰に説明しているんだか、と自身の思考回路に苦笑し、再度英雄が三竦みしているところに意識をやる。

そこで行われているのはライダーによる勧誘であった。

それが英断か愚挙なのかは置いて、それに答えるセイバーとランサーの答えは『否』だった。

ランサーは、自身が聖杯を捧げるのは新たな君主^{マスター}だけ、と怒りを露に吐き捨て。

セイバーは、それに重ねて自身もブリテン国を預かる王だから臣下になる筈もない、と一蹴した。

……いや、おかしい。確かにだ。確かにセイバーの真名はランサーにはばれていると見ていいが、まだライダーにはばれていない筈だ。

それを簡単にあかすなど……ハア。ライダーといいセイバーといい、勝つ気は有るのだろうか？と思わずにはいられないな。

聖杯戦争始動（後書き）

思っただんですけど、誰か書いてくれないかなあ？

えと、ですね。雁夜おじさんが『ルーザー（負け犬）』のクラスとして『めだかボックス』の【球磨川 禊】を召喚するって話です。

球磨川さんの台詞に「安心してよ、僕は弱い者の味方だよ」？が有りましたし、彼はある種の弱い者の英雄でも有ると重なりますから。

どうでしょう？

あとは、マーラ（魔羅）様とか。

それと、とある魔術の聖杯戦争とか面白そうですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6305x/>

誰がための英雄譚

2011年12月4日14時48分発行